資料　1

雲南市立病院
ステップアッププラン
果たすべき役割 編

〈最　終　総　括〉

平成２４年７月１３日

雲 南 市 立 病 院

病院運営の基本方針と具体目標に対する取り組みの総括

当院においては、平成２１年３月に作成したステップアッププランに基づき各種改善活動を進めてきた。プランの進捗状況の管理については、果たすべき役割と経営効率化に分けて整理し、年２回開催している評価委員会において状況報告をして来た。

果たすべき役割編では、この間取り組んできた住民との連携、開業医との連携、高度医療機関との連携などの各種連携事業や、医療職を育てて行くための主要施策である地域医療人育成センター事業の充実、また、安定した医療を提供するための人材確保の状況などについて、３年間の主な実績を以下に記載し総括とする。

1、住民の安全安心のための医療充実に努める。

①地域医療の拠点病院として、急性期を中心とした医療体制の提供に努める。

②救急医療体制を維持し、住民が安心して生活できる二次救急医療の提供に努める。

③情報発信に努め、定期的に地域との連携の場を確保するなど、地域に開かれた病院を目指す。

④高齢化の進行に伴い受診するための公共交通機関の確保と検討を行政機関とともに行う。

平成２３年度は雲南市立病院として体制も新たにしスタートした。その中で、基本理念、基本目標については従来のものを継承し、新たに５つの運営方針を掲げ取り組みを進めた。

【基本理念】

地域に親しまれ、信頼され、愛される病院

【基本目標】

１．住民・患者に選ばれる病院

２．開業医に選ばれる病院

３．職員に選ばれる病院

【運営方針】

○５事業（小児医療、周産期医療、救急医療、災害医療、地域医療）を中心とした診療方針の継承

○医師会との連携強化

○地域医療人育成センターの充実

○女性医師の招聘への環境整備

○市民への公開と病院祭の実施

〈３年間の実績について〉

【主な取り組み】

①地域医療の拠点病院として、急性期を中心とした医療体制の提供に努めるについて

・ 急性期を中心とした医療体制の提供に努めるため、常勤医師の確保が困難な診療

科については、非常勤医師の派遣を関連大学に依頼し体制整備を図る（非常勤医師数：月延べ人数約７０人、常勤換算数約５.３人）。

・ 医師のマンパワー不足を補い、患者の早期診断・治療にも繋がる効果が期待できる、「遠隔画像診断システム」を島根大学医学部附属病院との連携により平成２３年９月より導入した。

・ 医療機能の充実を図るため、電子カルテシステム及び画像配信システムを平成２３年８月１日より導入した。

②救急医療体制を維持し、住民が安心して生活できる二次救急医療の提供に努めるについて

・ 救急患者の初期治療や、受診する科が不明な患者の診察などを担う部門として「地域総合診療科（部長：大谷院長）」を平成２２年１２月より開設し、救急医療の充実に努める。

・ 雲南保健所、雲南消防署、町立奥出雲病院と合同の救急連絡会を毎月開催し、救急の連携体制充実に努める。

・ 平成２３年度は女性医師（麻酔科医）をパート雇用し、救急医療の充実を図った。

③情報発信に努め、定期的に地域との連携の場を確保するなど、地域に開かれた病院を目指すについて

・ 病院からの情報発信や健康で暮らしていくために必要な情報を提供することを目的に、医療出前講座「飛び出す！雲南病院講座」を開催し情報発信に努める。

〈開催状況〉H22 年度：９回開催（大東町内１回、加茂町内７回、三刀屋町内１回）
H23 年度：１６回開催（詳細について資料１の通り）

・ がんばれ雲南病院市民の会、雲南病院を支えよう市民の会と合同での先進地視察や研修会などを実施し、地域住民と協働での病院づくりに努める。

・ 雲南地域医療を考える会主催の地域医療シンポジウムに基調講演やパネリスト等で参画し、地域医療の実情や病院の方向性などについての意見を述べるなど、住民理解を得るように努める。

・ 平成２１年５月に病院ボランティアの会（Ｈ２４.４月現在会員数３７名、愛称：てごっ人）が発足され、月１回の定例美化活動や、正面玄関においての介助ボランティア活動、外来フロアーに癒しの空間として設置した「ふれあい展示コーナー」での絵画・書道・写真などの作品の展示等の活動等を行っていただき、地域との連携に大きく貢献していただいている。

　なお、ボランティアの会の活動については、定期的（隔月）に「病院ボランティアの会だより」を発行し紹介している（別添てごっ人だより参照）。

・ ケーブルテレビにおいて、病院特集番組を放映し地域への情報発信に努める（番組名：Ｈ２２年度「病院プレパラート」、Ｈ２３年度「メディカルガイド医診伝診」に変更）。

〈Ｈ２２年度番組内容〉

５月・・・「病院の新体制紹介」

７月・・・「受けよう乳がん健診」
９月・・・「治療は食事から」
１１月・・・「救急外来の一日」
１月・・・「病院を支える市民たち ～病院ボランティアの取り組み～」
３月・・・「よりよい看護を目指して」

〈Ｈ２３年度番組内容〉

資料２の通り

・ 平成２３年９月１０日、住民約３５０人参加の下「第１回病院祭」を開催する。今後も継続して開催し、地域に開かれた病院づくりを目指す。

④高齢化の進行に伴い受診するための公共交通機関の確保と検討を行政機関とともに行うについて

・ 雲南病院を中心とする市民バスの時刻表を作成し、市民バスの利用促進に努めているが、交通手段の確保については今後も検討が必要である。

2、高度先進医療及び地域医療機関との連携に努める。

①高度な医療を必要とする 4 疾病などの治療は、急性期と回復期医療の中心的役割を担いつつ、三次医療機関との連携を図る。

②1 次医療機関（診療所）との連携を強化する。

③圏域内の二次医療機関との連携を図る。

【主な取り組み】

①高度な医療を必要とする 4 疾病などの治療は、急性期と回復期医療の中心的役割を担いつつ、三次医療機関との連携を図るについて

・ 各医療機関との連携の窓口である地域連携係に看護師（師長）を配置し、体制強化を図る。これにより、三次医療機関からの逆紹介（急性期治療が終り回復リハなどへの紹介）は、以前より２倍近い数字となっている。

②1 次医療機関（診療所）との連携を強化する、③圏域内の二次医療機関との連携を図るについて

・ 医師会の事務局を病院内に設置（平成２２年１１月）し、医師会との連携強化に努めている。

・ かかりつけ医と病院医師とが共同で入院患者の診療指導を行う、開放型病床（オープンベッド）の運用を平成２３年６月から開始した（Ｈ２３年度実績：利用者数２６名、１日平均２.１６名）。

・ 各診療所（平成２３年１月より提供）、平成記念病院との救急における連携強化を図るため、医師の宿日直体制の情報を提供している。

・ 一次医療機関及び二次医療機関との連携強化を図るため、週１回飯南病院に、月１回掛合診療所に整形外科医を派遣し診療支援を行っている。

・ 救急医療連絡会を通じて、町立奥出雲病院との連携を図っている。

3、地域保健の充実と介護・福祉との連携に努める。

①圏域内の保健・福祉と一体化した地域医療サービスに努める。

②地域保健と連携し、糖尿病など生活習慣病の重症化予防に努める。

③リハビリテーションを中心とした療養環境を整備し、高齢者が安心できる医療を提供する。

【主な取り組み】

①圏域内の保健・福祉と一体化した地域医療サービスに努めるについて

・ 平成２３年１１月、雲南市内の各福祉施設との意見交換会を実施し、各施設から身障者用駐車場の拡充、外来診察時の待ち時間の短縮、入院時の待ち時間の短縮等の意見が出され、身障者用駐車スペースの増設（Ｈ２４.４月）などの対応を図る。

②地域保健と連携し、糖尿病など生活習慣病の重症化予防に努めるについて

・ 島根大学、雲南市等と共同で「地域総合健康サービス産業創出基盤整備事業」を実施し、住民の健康増進や生活習慣病予防に向けた取り組みを展開する（平成２１年度事業）。

※主な事業内容

①糖尿病予防教室の開催

約２００人を対象に市内７会場で各会場４回開催

②まめなか支援システムの構築

③健康ひろばの設置

健康に関する情報提供や、相談の場として市内７ヶ所に設置（雲南病院内にも設置し現在も運営を継続している）。

・ 糖尿病教室、運動教室などの各種教室の充実を図り、生活習慣病予防対策の強化に努める（運動教室４回、糖尿病教室２回、健診フォローアップ教室１回）。

③リハビリテーションを中心とした療養環境を整備し、高齢者が安心できる医療を提供するについて

・ リハビリテーション技術科のスタッフを増員（Ｈ２３年度：理学療法士２名、作業療法士１名。Ｈ２４年度：理学療法士１名）し、リハビリ部門の充実に努める。

4、地域医療を安定的に提供するための健全経営に努める。

①病棟再編成など病床数、診療科の見直しを行う。

②安定した医療を提供できる人材確保や育成に努め、また職員意識の高揚を図る。

③経営の効率化を図り、経営基盤の強化に努める。

④構成市町（一般会計）との連携を密にし、適正な繰り出し基準による健全経営に努める。

【主な取り組み】

①病棟再編成など病床数、診療科の見直しを行うについて

・ 地域総合診療科の院内標榜を図るなど、医療提供体制の充実に努める。

・　病床数については、現状維持とすることで確認した。

②安定した医療を提供できる人材確保や育成に努め、また職員意識の高揚を図るについて

・　島根大学大学院医学系研究科修士課程「地域医療支援コーディネーター養成コース」に職員１名を受講させ、平成２４年３月に地域医療支援コーディネーターとしての資格を取得する。今後コーディネーター連絡会議等を通じて、県、大学等との連携強化に努める。

・　３年間の医師確保の状況について

〇平成２１年度

面談実績：６名

採用状況：０名

〇平成２２年度

面談実績：７名

採用状況：３名（内科医２名：Ｈ２２.５月１名、Ｈ２３.４月１名、皮膚科医：Ｈ２３.１月１名（鳥取大学からの派遣））

〇平成２３年度

面談実績：５名

採用状況：３名（外科医：Ｈ２３.４月２名（後期研修医）、Ｈ２４.１月１名）

〇今後の見込みについて

資料３参照

・　看護師確保の状況については平成２３年４月５名（内、新卒者４名）、平成２４年４月５名（内、新卒者３名）の採用が図れたが、平成２３年度は退職者が６名であり、依然厳しい状況にある。このことにより、従来から取り組んでいる看護学校訪問やガイダンスへの参加、奨学金の貸与（Ｈ２４,４月現在の貸与者７名）等に加え、看護学校との連携を強化するため、看護師長１名を看護職員実習指導者養成講習会（約２ヶ月間）に受講させ、平成２５年度より看護学生の実習事業を開始する。

・　看護師のスキルアップ施策として、平成２４年度から希望する職員に対し、認定看護師資格取得に向けた取り組みを実施する。初回の取り組みである平成２４年度については、認定看護師教育課程入学選抜試験（感染管理）を受験した職員１名が試験に合格し（受験者１１２名中３０名合格、合格率２６.７％）、認定看護師資格取得に向け６ヶ月間の講習を受講する。

・　地域医療人育成センターにおける各種育成事業の充実に努め、平成２３年度地域医療人育成センター事業（資料４）を中心に取り組んだ。成果として、平成２３年度は当院で初期研修を受講した２名の医師に着任（後期研修）いただき、平成２４年４月からは島根大学医学部に新設された「総合医育成特別コース」を選択した研修医１名が、６ヶ月間の研修に従事していただいている。また、平成２３年度には日本プライマリ・ケア連合学会に申請した、「家庭医療後期研修プログ

ラム」が認定され、総合医を目指す後期研修医の研修指定病院として、当院を選択する後期研修医の増加が期待できる。

※平成２４年度活動計画については資料５の通り。

・ 職員の意識改革と医療の質の向上を図ることを目的に、ＱＣ（品質管理 Quality Control）サークル活動を平成２２年度から導入し、活動の成果を報告する発表大会を年１回開催している。この発表大会で優勝したサークルについては、ＱＣ活動のレベル向上を目指し、医療のＴＱＭ推進協議会が主催する全国大会に出場することとしている。

・ 医師の事務作業を軽減させることを目的に、平成２２年６月から医師事務作業補助者を２名配置する。

③経営の効率化を図り、経営基盤の強化に努めるについて

経営効率化編による。

④構成市町（一般会計）との連携を密にし、適正な繰り出し基準による健全経営に努めるについて

・ 平成２３年４月からの市立化に当り、市と繰り出し基準についての協議を進め、一定のルールを定め健全経営に努めている。

◆運営方針に対する主な取り組み

【運営方針】

○５事業（小児医療、周産期医療、救急医療、災害医療、地域医療）を中心とした診療方針の継続

５事業の中でも特に救急医療に重点を置き、プライマリーケアを中心とした救急医療の充実に努めている。

○医師会との連携強化

医療連携の重要施策である開放型病床（オープンベッド）の利用率向上に向け、保健推進課を中心に取り組んでいる（Ｈ２３年度利用状況：利用者数２６名、月平均２.１６名、病床利用率４０.９％）。

○地域医療人の育成に努める

体制を強化し、地域医療人育成センターの更なる充実を図る。

○女性医師の招聘への環境整備

増加傾向にある女性医師を招聘するため、女性医師専用当直室の設置や院内保育所などの環境整備を行う。なお、院内保育所については平成２３年度に拡張工事を実施し、入所定員の増員と入所環境の整備を図る。

○市民への公開と病院祭の実施

出前講座、ケーブルテレビ、市報、ホームページなどを通じて情報提供に努める。また、平成２３年９月１０日に第１回病院祭を開催し大変盛況であった。今後も年１回秋季に病院祭を開催（第２回病院祭：９月２９日（土）開催予定）し、市民に開かれた病院を目指す。

実施計画　集計表

H24年3月現在

基本方針 / 具体目標 / 具体的取り組み事項	具体的取り組み（細区分）	計画区分（●実施済）短期（単年度）	中期（5年以内）	長期（5年以上）	外部協議項目	実施時期及び取り組み状況
1、市民生活の安全安心のための医療充実に努めます。						
① 地域医療の拠点病院として、急性期を中心とした医療の提供に努めます。						
（1） 病院の運営・診療方針の明確化	（ア） 病院の運営・診療方針の明確化	●				H23年度運営方針を策定し、広報誌、ケーブルテレビ等で住民周知する
（2） 医療機器、施設設備の充実	（ア） 医療機器、施設設備の充実	●				整備計画策定 H22.6
（3） 電子カルテの導入	（ア） 電子カルテの導入		●			H23.8月1日から稼動
（4） 予約の推進、受診の効率化	（ア） 予約の推進、受診の効率化	●				H23年10月に、外来待ち時間調査を実施
② 救急医療体制を維持し、市民が安心して生活できる二次救急医療の提供に努めます。						
（1） 医師会との機能分担	（ア） 医師会との機能分担		●		●	雲南圏域地域医療関係者連絡会を中心に協議
（2） 医師会、消防署、関係機関とのネットワーク化	（ア） 医師会、消防署、関係機関とのネットワーク化		●		●	〃
（3） 3次医療との連携強化	（ア） 3次医療との連携強化	●			●	地域連携係に看護部の師長級を配置し体制強化を図る
③ 情報発信に努め、定期的に地域との連携の場を確保するなど、地域に開かれた病院を目指します。						
（1） 病院から地域への情報発信	（ア） 病院から地域への情報発信	●				H23年度から市報へ病院の情報を掲載する
（2） 病院あり方懇談会の継続	（ア） 病院あり方懇談会の継続	●				評価委員会へ移行し年2回開催
（3） 市民組織との連携・市民ボランティアの拡充	（ア） 市民組織との連携・市民ボランティアの拡充	●				介助ボランティア等を開始し拡充に努める
④ 高齢化の進行に伴い、受診するための公共交通機関の確保の検討を市とともに行います。						
（1） 交通網の整備（利便性の向上）	（ア） 交通網の整備（利便性の向上）		○			交通手段の確保については、継続的に協議する
2、高度先進医療及び地域医療機関との連携を強化します。						
① 高度な医療を必要とする4疾病などの治療は、急性期と回復期医療の中心的役割を担いつつ3次医療機関との連携を図ります。						
（1） 3次医療機関（高度医療）への紹介	（ア） 3次医療機関（高度医療）への紹介	●				予約紹介率の向上に努める　H21.11月49%、H22.2月56%　60%目標
（2） 4疾病の自己完結率向上	（ア） 4疾病の自己完結率向上		●			大学から非常勤医師の派遣により4疾病の自己完結率向上に努めている
（3） 回復期リハビリの充実	（ア） 回復期リハビリの充実	●				H23年度PT2名、OT1名、H24年度PT1名増員し充実を図る
② 1次医療機関（診療所）との連携を強化します。						
（1） 医師会との連携強化・在宅医療の連携	（ア） 医師会との連携強化・在宅医療の連携		●		●	H22.11月から医師会事務局を病院内に開設
（2） かかりつけ医制度の周知	（ア） かかりつけ医制度の周知	●				市・保健所対応
（3） 病診連携による機能分担と紹介率の向上	（ア） 病診連携による機能分担と紹介率の向上		●		●	オープンベッドの活用などにより紹介率向上に努める
③ 圏域内の2次医療機関との連携を図ります。						
（1） 平成記念病院との連携	（ア） 平成記念病院との連携		●		●	医師の宿日直体制の情報を提供し連携強化に努める
（2） 雲南圏域2次医療機関との連携	（ア） 雲南圏域2次医療機関との連携		●		●	雲南圏域地域医療関係者連絡会を中心に協議
3、地域保健の充実と介護・福祉との連携に努めます。						
① 市の保健・福祉と一体化した地域医療サービスに努めます。						
（1） 健康相談の開催や支援	（ア） 健康相談の開催や支援		○		○	市で調整
（2） 地域医療との連携	（ア） 地域医療との連携		●		●	福祉機関との連絡会を開催
（3） 在宅医療の充実	（ア） 在宅医療の充実		○		○	市で調整
（4） ケーブルテレビ等を活用した健康教室	（ア） ケーブルテレビ等を活用した健康教室	●				H23.4月より毎月放映中

基本方針	具体目標	具体的取り組み事項	具体的取り組み（細区分）	計画区分（●実施済）短期（単年度）	中期（5年以内）	長期（5年以上）	外部協議項目	実施時期及び取り組み状況
	② 地域保健と連携し、糖尿病など生活習慣病の重症化予防に努めます。							
		（1） 生活習慣病予防活動の推進	（ア） 生活習慣病予防活動の推進	●				計画的な事業継続
	③ リハビリテーションを中心とした療養環境を整備し、高齢者が安心できる医療を提供します。							
		（1） 関係機関との定期的な連絡会議の開催	（ア） 関係機関との定期的な連絡会議の開催		●			連絡会議の開催
		（2） 地域連携パスの導入	（ア） 院内パスの導入		○			H22年度に一部導入
			（イ） 地域連携パスの導入		○			導入に向け関係機関と協議中
4、地域医療を安定的に提供するための健全経営に努めます。								
	① 病棟再編など病床数、診療科の見直しを行います。							
		（1） オープンベッド（開放病棟）・検査機能の活用	（ア） オープンベッド（開放型病床）の活用	●			●	H23.6月から運用開始
			（イ） 検査機能の活用	●				開業医からの依頼件数：CT・MRI 185件（H23年度実績）
		（2） 療養病床（介護型医療型）の検討	（ア） 療養病床（介護型又は医療型）の検討	○				国の動向を勘案し検討する
		（3） 精神科病棟検討	（ア） 精神科病棟検討	●				H23.3月末で廃止。施設の活用方法については病院建設計画の中で検討する
	② 安定した医療を提供できる人材確保や育成に努め、また職員意識の高揚を図ります。							
		（1） 大学との連携強化	（ア） 大学との連携強化		●			強化策実施中
		（2） 地域医療人育成センターの充実	（ア） 地域医療人育成センターの充実	●				体制整備
		（3） 院内保育所の設置	（ア） 院内保育所の設置	●				H21.9月開設、H24.3月拡張工事実施
		（4） 雲南市出身医師の把握と呼びかけ	（ア） 雲南市出身医師の把握と呼びかけ		●			情報収集に努めている
		（5） 中学・高校生の体験の場つくりや学校への医療職の派遣	（ア） 中学・高校生の体験の場つくりや学校への医療職の派遣	●				定期開催
		（6） 医学部、看護学校への地域枠推薦や奨学金利用促進	（ア） 医学部、看護学校への地域枠推薦や奨学金利用促進	●				利用促進を促す　H24.4月現在：地域枠推薦医学生12名、看護学生5名、奨学金貸与者7名
		（7） 職員の意識改革（接遇の向上、人権尊重と医療倫理の徹底）	（ア） 職員の意識改革（接遇の向上、人権尊重と医療倫理の徹底）	●				H22.9月QC活動開始
			（イ） 院内ホームページの開設	○				運用について検討中
		（8） 職員研修と専門職の養成、人事交流の実施	（ア） 職員研修と専門職の養成		●			研修計画を策定し研修内容の充実を図る
			（イ） 医事担当職員の養成及び医事業務の体制整備		●			H22.6月より医師事務作業補助者を2名配置する
			（ウ） 看護職員確保対策の検討		●			ガイダンス参加、看護学校訪問、オープンホスピタルの実施など
			（エ） 人事交流の実施	●				H21年度より実施
	③ 経営の効率化を図り、経営基盤の強化に努めます。							
		（1） 運営形態の見直しと実施（市立病院移行）	（ア） 運営形態の見直しと実施（市立病院移行）	●				H23.4月より地方公営企業法全部適用とする
			（イ） 市立病院移行に係る調整事務担当者による調整の実施	●				調整事務実施
		（2） 院内組織の見直しと体制の強化	（ア） 病院組織の見直し	●				市立化に併せ組織の見直しを実施する
			（イ） 公立病院改革プランの成果の検証		●			評価委員会で検証
			（ウ） 財務会計の改良		●			財務会計システムを更新し予算科目を見直す
			（エ） 財産活用の検討		●			病院建設計画の中で検討する
		（3） 病院の建替えの検討	（ア） 病院の建替えの検討			●		5年計画による建替えに向け協議を進めている
			（イ） 診療科、病床数の検討		●			病床数については現状維持とすることで確認する
	④ 市（一般会計）との連携を密にし、適正な繰入基準による健全経営に努めます。							
		（1） 繰出基準の明確化	（ア） 繰出基準の明確化	●				繰出基準の調整

資料

平成２３年度 医療出前講座「飛び出す！雲南病院講座」開催状況

日時	講座名	派遣職員	依頼先	ところ	参加人数	備考
6月14日	防煙教室	田中医師	加茂中学校	加茂中学校	66名	1年生
6月21日	雲南病院はいま	松井管理者	大東町東町自治会	大東町東町公民館	約30名	
7月1日	夏場の健康管理のあり方	大谷院長	常松G安全衛生協議会	加茂町ラメール	約80名	
7月12日	防煙教室	田中医師	三刀屋中学校	三刀屋中学校	81名	1年生
7月14日	介護教室	勝部師長	三刀屋地区福祉委員会	三刀屋交流センター	約30名	
7月15日	食中毒について	岩間検査技師	大東町介護サービス事業所連絡会	社会福祉協議会大東支部	約30名	
8月24日	薬の飲み方	本田薬剤師	健康クラブ	下熊谷交流センター	13名	
9月19日	薬の飲み方	本田薬剤師	喜樂会（老人会）	掛合町多根船津集会所	15名	
10月8日	ひざ・腰の痛みについて	三木堯明医師	雲南市健康推進課（市民健康大学）	木次総合センター	16名	
10月26日	防煙教室	田中医師	海潮中学校	海潮中学校	19名	3年生
11月22日	薬の飲み方	本田薬剤師	雲南地域高齢退職者団体連合	下熊谷交流センター	35名	
12月14日	ひざ・腰の痛みについて	三木堯明医師	雲南市老人クラブ連合会	チェリバホール	120名	
2月13日	生活習慣病予防について	渡部保健師	佐世地区振興会	佐世交流センター	２０名	
2月24日	雲南市立病院の現状 お年寄りの腰・膝の痛み	松井管理者	大木原自治会	大木原公民館	２５名	
3月13日	薬の飲み方	薬剤師	ぼたんの会雲南地区	八日市センター	10名	
3月27日	雲南市立病院の現状 お年寄りの腰・膝の痛み	松井管理者	地域包括支援センター	三刀屋交流センター	７１名	

資料№.２

メディカルガイド「医診伝診」放映状況（H23年度）

ケーブルテレビにおいて、毎月病院特集番組を放映

放映月	カルテ№.	タイトル	担当部署
４月	＃１	春に気をつけておきたい病気・症状	診療局
５月	＃２	健診のすすめ	保健推進課
６月	＃３	感染予防のすすめ	検査技技術科
７月	＃４	健康は食事から	栄養管理科
８月	＃５	お薬のはなし～薬から見える地域医療～	薬剤科
９月	＃６	曲がる関節、曲げない関節	人工関節センター
１０月	＃７	生活を取り戻すために	リハビリテーション技術科
１１月	＃８	医療のたすきをつなぐ	地域連携係
１２月	＃９	発見。撮影で分かる病気、症状	放射線科
１月	＃10	出産のすすめ１	看護部（助産師）
２月	＃11	出産のすすめ２	看護部
３月	＃12	地域医療が歩む道	総務課

資料№.3

医師の状況について

1．平成24年度採用・退職予定

採用予定：皮膚科医師1人（6月11日付）、眼科医師1人（10月予定）

退職予定：整形外科医師1人（8月末）

医 師 数：19人（平成24年10月現在の常勤医師数）

非常勤医師数：月延べ人数約70人（常勤換算数約5．3人）

平均年齢：52．3歳（平成24年6月現在）

2．定年退職予定者の年度別推移

年　度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度
定年退職予定者数	1 （内科）	0	0	1 （内科）	0

※H24．4現在60歳代医師数・・・6人（事業管理者含む）

上記の内年俸制医師数・・・3人（65歳以上）

3．地域枠推薦医学生の年度別推移

年度／学年	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	合計
H24年度	4	2	2	3	1	0	12
H25年度	―	4	2	2	3	1	12
H26年度	―	―	4	2	2	3	11
H27年度	―	―	―	4	2	2	8
H28年度	―	―	―	―	4	2	6

4．地域枠推薦初期研修医及び後期研修医の年度別推移

年　度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
初期研修医	1	1	1	4	5	4	6
後期研修医（3年目以降）	0	0	1	1	2	5	7

資料

平成23年度　地域医療人育成センター事業（実績報告）

業務	事業名	内容・目的・方法など	開催予定日等	参加者など
（１）地域医療を目指す医師、看護師を中心とする医療職の育成	島根大学医学部医学科特別選抜（地域枠推薦入学）事業 雲南市立病院委託学生奨学金貸与事業	島大地域枠推薦入学者の確保及び育成と、看護師養成を目的とした奨学金制度（返済免除の義務年限7年）の利用促進。	平成23年5月中に雲南圏域の各高校を訪問し、奨学金制度の説明を行う。	島大医学部地域枠推薦入学者9名（6年生1名、4年生1名、3年生3名、2年生2名、1年生2名） 看護学生奨学金貸与者5名（3年生2名、2年生3名） 6/22　大東、三刀屋、横田、飯南高校へ訪問
		島大地域枠推薦医学生との意見交換	平成23年10月	10/24　学生7名参加（行政･病院関係者6名参加）
		島大地域枠推薦入学者に係る医療体験実習	第1回　平成23年8月 第2回　平成24年3月	第1回　8/1～5　4名参加　1名緊急医師確保枠参加 第2回　3/26～30（予定）
（２）島根大学医学部 「地域医療教育学講座」、 「地域医療支援学講座」との連携 島根大学医学部附属病院 「地域医療教育研修センター」との連携 「若手医師育成・定着事業計画」	地域医療教育連絡会	島根大学医学部6年生が行う3週間の地域医療実習の受入病院と連絡会議を開催する。	平成23年10月	10/3　石原、勝部　参加
	島根大学医学部附属病院研修管理委員会	臨床研修プログラムに関する検討会。	平成23年10月	11/5　大谷院長　出席
	臨床研修指導医講習会	厚生労働省の定める「医師の臨床研修に係る指導医講習会の開催指針」に基づき開催し、県内研修医の研修環境全般のレベルアップを目指す。		8/12～14　産婦人科加藤医師受講　修了
	地域医療セミナー＆医学生夏季・春季実習	地域医療への興味関心を持ってもらうことを目的としセミナー・実習を行う。	平成23年8月	8/9～11　医学生3名（1年:2名、3年:1名）参加
	若手医師ステップアップ研修及び意見交換会	県内で研修中の初期後期研修医等が一堂に会し、若手医師の参考になる講演会等及び意見交換会を行い、県内研修医の研修環境全般のレベルアップを目指す。	平成23年8月	8/27　勝部参加
	地域医療支援コーディネーター養成コース（大学院修士課程）	職員を左記コースに受講させ医療人としての知見を高め、島根大学医学部との連携強化と、医師の就労支援強化を図る。	平成22年度から2年間	受講者：勝部琢治
（３）医学生による地域医療研修及び地域医療実習	島根大学医学部「地域医療病院実習」	地域医療実習病院説明会	平成24年1月	1/23　大谷、勝部　参加
		大学では体験できない様々な医療の側面を学習し、医療全体を見渡すことのできる広い視点を養い、医療の本質に対する理解を深めることを目的。	平成23年4月～7月	島大医学科6年生　25名参加（4月4日～7月22日）
（４）初期･後期臨床研修医の募集及び指導	協力型臨床研修病院としての研修医受入	島根大学医学部附属病院（卒後臨床研修センター関係）		2年目研修医　6名（延8ヶ月）
		島根大学医学部附属病院（地域医療）　総合医研修（Ｈ24～）		
		島根大学医学部附属病院卒後臨床研修プログラムにおける「地域保健・医療研修」の研修機関からの説明会」及び地域研修機関と初期臨床研修医との意見交換会」		11/5　佐野診療局長　出席
		県立中央病院（地域医療）	1か月	2年目研修医 1名（1ヶ月）
		松江赤十字病院（地域医療）	1か月	2年目研修医 2名（2ヶ月）
		松江生協病院（地域医療）	平成22年度～	
		出雲市民病院（外科、救急、小児科、産婦人科）	11か月間	2年目研修医　1名（4～9月）
（５）中学生、高校生の職場体験活動	高校生医療現場体験セミナー	将来医師、看護師を始めとする医療職を目指す学生を増やすことを目的に開催する。	第1回　8月 第2回　3月	第1回　8/1　24名参加 第2回　3/26　34名参加
	三刀屋高校職場体験学習	体験を通じて自己のあり方、生き方の学習と、将来の進路意識・目的意識の高揚を目指す。	平成23年10月	10/12～14　6名参加
	中学校職場体験（雲南市「夢」発見ウイーク）	雲南市内の中学３年生を対象に、将来目指したい職場を体験させ、社会の仕組みや現実を肌で感じさせることを目的に雲南市教育委員会主催で開催。	平成23年9月	9/26～28　10名参加 10/15.16　幸雲南塾inさんべ　毛利、勝部　参加
（６）中学生、高校生の職場体験活動　新規	中学生一日看護体験	将来、看護師を目指す学生を増やすことを目的に開催	随時	大東中学校3年生　4名参加
	雲南市大東中学校市内班別自主研修	市内事業所を巡回し、医療についてのＱ＆Ａを実施		9/9　1年生　6名参加
（７）その他、病院事業管理者が必要と認める業務。	雲南市立病院　病院情報提供	島大地域枠推薦医学生と奨学金貸与者、石見高看地域枠学生へ 病院の新聞記事や近況などを「市立病院だより」として情報提供		8月発送

資料№.５

平成２４年度 地域医療人育成センター事業

１．体制について

センター所長　　大谷　順 院長

センター副所長　　曽田一也 医療技術部長、森脇義弘 外科部長

白根典子 看護部長

事　　務　　局　　総務課総務係

２．平成２４年度センター事業（研修、実習関係）について

○医師育成関係事業

・研修医による地域医療研修（１１人）

島根大学医学部附属病院：７人（内訳：６ヶ月１人（総合医育成特別コース）、４ヶ月１人（２ヶ月×２回）、１ヶ月５人）

島根県立中央病院：２人（１ヶ月）

松江赤十字病院：１人（１ヶ月）

松江市立病院：１人（１ヶ月）

・島根大学医学部地域医療実習

６年生１８人（５月～７月）、５年生１９人（８月～１１月）

・夏季地域医療実習

３人（８月２１日～２３日）

・医学部地域枠推薦医療現場実習

対象者及び実施期間：地域枠推薦志望高校生、春・夏休み期間中に１週間

○看護師育成事業

・母性看護実習

米子医療センター附属看護学校：３人（３週間）

・高校生看護体験実習

三刀屋高校１年生（１０月頃）

○医療職体験事業

・高校生医療体験セミナー

春・夏休み期間中開催予定

・中学生職場体験

「夢」発見ウィーク（９月）等

３．その他

・地域枠推薦医学生及び看護学生との意見交換会の開催（年２回程度）

・島根大学医学部との連携による総合医育成研修の充実

・雲南圏域の研修拠点病院として、新人看護師研修等看護師の各種研修を充実するため、島根大学医学部スキルアップセンターと連携した研修事業を推進すると共に、地域医療再生基金を活用して研修体制の整備を図る。

病院ボランティアの会

てごっ人（と）だより

No.8

総務課企画係

平成 24 年 1 月発行

新しい年を迎え気持ちも新たに致しまして早ひと月が経とうとしております。今年は辰年ですが、「昇り竜」のごとく皆さまにとりまして、また病院にとって飛躍の年となればと思っております。本年も変わりませずどうぞよろしくお願いいたします。

さて、今年最初のボランティアだよりでは、１２月に開催した「院内クリスマスコンサート♪」の様子や愛称決定について、また１１月と１月の美化活動、今年１年間の活動予定などを中心に紹介します。

ボランティアの会　愛称決定！「てごっ人」・院内クリスマスコンサート

昨年秋から募集しておりました病院ボランティアの会の愛称が昨年末に決定し、その発表が１２月２１日の「院内クリスマスコンサート♪」の開会時に行われました。

愛称“てごっ人（と）”に決定いたしました！「手伝い」の意味の方言の“てご”からきていて、「人」を「と」と読んでいます。今年はこの愛称で様々な活動をして頂けたらと思います。

また、この「院内クリスマスコンサート♪」に際しましては、前日は会場設営、電飾等飾付け、看板作製等、当日は、車いす介助などのお手伝いをボランティアの皆さんにしていただきました。今回も華やかに飾っていただき、サンタクロースの大きな人形も持込んで下さり大いに盛り上げていただきました。クリスマスコンサートは職員有志による音楽友の会「サウス クラウド アンサンブル」による楽器のアンサンブルやハンドベルによるクリスマスソングの演奏、男女混声の合唱などで、一足早いクリスマスの夜を楽しんでいただきました。多くの入院患者さんがコンサート会場においでいただき、楽しいひと時となりました。

音楽友の会♪

「South Cloud Ensemble(ｻｳｽ･ｸﾗｳﾄﾞ･ｱﾝｻﾝﾌﾞﾙ)」による、合奏と合唱

会場設営作業（前日）の様子

平成24年のボランティア作業活動予定

◆院内美化の日の活動

一　月　本館階段滑り止め更新作業
二　月　院内手すり・長椅子等清掃
三　月　車椅子点検
四　月　裏山等草刈り
五　月　院内網戸補修
六　月　合同美化作業（草刈り、浴室など）
七　月　構内溝掃除
八　月　七夕飾りつけ
九　月　裏山等草刈り
十　月　避難スロープ・外壁清掃
十一月　車椅子点検
十二月　クリスマスコンサートの準備

◆介助ボランティア活動

今年も、正面玄関において「介助ボランティア」を行っていただいています。寒い中も毎日頑張っていただいております。
ご協力、ありがとうございます。

11月　院内美化の日

栄養管理科洗い場網戸格子戸の清掃を行いました。ほこりや汚れで真っ黒に汚れていましたが手際よく、あっという間に明るくきれいになりました。

1月　院内美化の日

本館階段の滑り止めの補修、交換作業を行いました。外は冷え込んだ日でしたが、作業中は皆さん熱くなるほどでした。

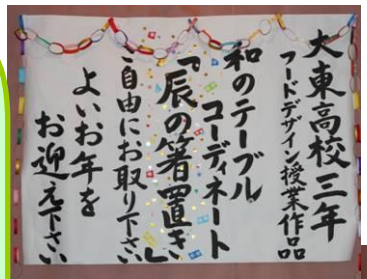
♪展示コーナー作品紹介♪

（H23.11～H24.1 の一部）

大東幼稚園

若葉書道教室

日本画七星会



大東高校３年生

かわいい辰の箸置きは大変好評で数日で無くなりました♪

こども絵画教室

大東おりづる会

ボランティアの会とがんばれ雲南病院市民の会と病院の合同懇親会
H23.12.6
皆様と意見交換でき、大いに盛り上がりました。